

「高尾」は「鷹尾」だった？

高尾集落の名は、一般的には「高尾根」を指すと考えられていますが、近世までは「鷹尾」と記されることが多かったのです。むかし日本武尊(ヤマトタケルノミコト)が甲府の酒折の宮から櫛形山を眺め、鷹が巢に座している姿を連想したというエピソードから「鷹座巢山」と呼ばれ、尾の北側にある集落を「北鷹尾」と呼ぶようになったと伝えられています。



知られざる穂見神社の奇祭！ 高尾の夜祭りにいってみよう！

毎年11月22・23日に行われる秋の例祭。かつては12月1・2日に、夜通し行われたことから「高尾の夜祭」「夜参り」と呼ばれています。

市指定文化財 太々神楽

神に奏上するために面をかぶり神楽殿で舞う伝統文化。狐がまく福餅を食べると一年健康でいられると言われ、狐が登場すると境内はひときわ盛り上がります。



全国でも珍しい伝統「資本金貸し」

商売繁昌・家内繁昌の元手となる資本金を神社から借り、翌年には倍にして返すという風習。二千円をそえて申し込むと「金百万円」と印刷したお札と千円が資本金として戻されるのです。現在も伝わる、全国でも非常に珍しい伝統です。

夜の高尾道「提灯行列」

かつて高尾道には、夜祭に向かう提灯の灯りが続いていたといわれています。夜中に帰ることができない参拝者のため、高尾の民家が宿を提供する風習もありました。



※現在、高尾在住者や市民の有志たちによって、高尾の伝統継承や、古道の整備などの活動を行っています。より多くの方々のご協力が必要です。ご興味のある方は下記連絡先にご一報ください！

2014年
南アルプス市教育委員会・
高尾プロジェクト
TEL. 055-282-7269

このガイドマップは、平成25年度自治総合センターコミュニティ助成「地域資源活用事業」を受け作成しています。



神々が宿る穂見神社の世界



歴史・信仰がすごい

神聖で特別な存在



にょほうきょう 如法經

山岳信仰の証拠が洪水の時に流れ出てきたとか！

こんな山奥に佇む穂見神社。実は平安時代からの歴史が！なんと、全国の神社一覧がまとめられた千年以上前の書物にも載っているのです。昔は、五穀豊穡・養蚕守護の神として信仰されていたが、最近では商売繁昌の神として県内外から人々が訪れる、ちょっと珍しい神社。山岳信仰や修験の跡もあり、山奥ならではの信仰もあった、実はすごい神社なのです。



建築・造形がすごい

県指定文化財

穂見神社本殿

本殿は、入ってすぐには見られません。神が祀られる大切な場所なので、正面の建物の奥に隠れ、森に寄り添うように佇んでいるんです。



市指定文化財 かぐらでん 穂見神社神楽殿

足を踏み入れると目に飛び込んでくる豪華で迫力のある神楽殿！屋根の下に彫られた四神達が、穂見神社を守っています。



しんめ 神馬

境内を見つめる木彫りの神馬。手綱でつながれているのだから。江戸時代の伝説的な彫刻職人 左甚五郎が作ったという噂もあります。



不思議な神仏たちがすごい

しじん

四神 (玄武、朱雀、青龍、白虎)

穂見神社を守っている、4つの神の生き物を見つけられるでしょうか？ 四神(しじん)は天の4つの方角を司る霊獣で、東は青龍(せいりょう)、南は朱雀(すざく)、西は白虎(びやっこ)、北は玄武(げんぶ)が守っています。神楽殿をよく見てみてください...



目鼻のない木像

平安時代に彫られた木像！朽ちた目鼻が、長い歴史を物語っています。

年号



みしょうたい 御正鉢

三跡王子(大福王子・大寿命王子・大智徳王子)が彫られた鎌倉時代の鏡があります。年号と地名が彫られたものの中では日本最古！

その他にも、穂見神社には不思議な神々が潜んでいるのだそうです。



昭和30年代初期の高尾集落のようす

文珠寺 (もんじゅじ)

穂見神社から分かれたお寺。昔、神社とお寺は密接な関係にあったのです。

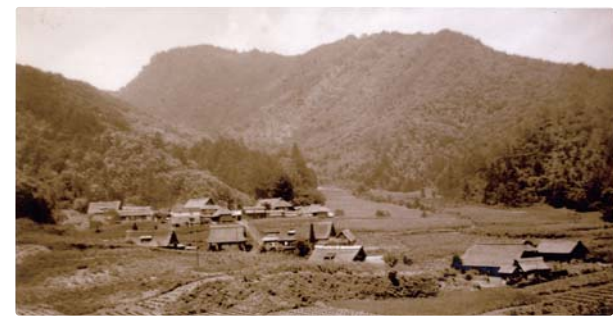
御西(おにし) 御北(おきた)

江戸時代の村絵図によると、御北は集落の名主(なぬし)、御西は穂見神社の神主(かぬし)の家だったそうです。大きくて立派な古民家は、今でも後継者が守っています。

不動沢(フンサワ)は高尾を支える水源。水車小屋で粉をひき、神社の鳥居前に広がる田畑をも潤したのだとか。

神・山とともに生きる人々

「神前集落」と「山村集落」の、それぞれの一面をもつ高尾集落では昔、林業、炭焼き、天然氷などの生業が行われていました。自然の神々への感謝や祈願を大切にきた季節行事が今も行われています。



遺跡で散歩

Vol. 8

8

Take Free

南アルプス市

高尾特集号

山奥の
不思議な神社を
知っていますか？
古道を歩いてめぐらす、
神々が宿る穂見神社

